

令和4年度「知事と市町長の円卓対話」（木曾岬町）概要

- 1 対話市町 木曾岬町（加藤 隆 木曾岬町長）
- 2 対話日時 令和4年4月24日（月）13：30～14：00
- 3 対話場所 ESR弥富木曾岬ディストリビューションセンター
- 4 視察場所 藤里港（鍋田川下水門付近）
町道鍋田川線（町道富田子・間崎線付近）
県道バイパス（三崎地内）
- 5 対話項目1 県境地にある木曾岬町の現状と道路拡充の必要性について

6 対話概要

対話項目1 について

（町長）

木曾岬町はちょうど鍋田川に沿って県境があり、今、右岸堤を県によって耐震工事を進めていただいているが、今後さらに予算をしっかりとって耐震工事をすすめていただきたい。

また鍋田川は、中水門～木曾岬干拓発端あたりまでは県境・町境がはっきりしない中で、現状三重県と愛知県とで管理をいただいているが、特に町を守る大切な下水門が非常に老朽化しているため、この耐震工事と、もう一つは万が一の（災害時の）ために遠隔操作ができるようにご配慮をいただきたい。そのあたりを、愛知県と調整していただきたい。

（知事）

鍋田川の水門、先ほど町長に案内いただき近いところで見させていただきましたが、水位がかなり高いなというイメージがあります。大潮の時はかなり上のほうまで水がくるのだろう、という感じがしました。

この堤防工事につきましては、平成29年度から耐震対策工事をし、令和3年度まで約600メートルが完成しています。残りは800メートルぐらいですが、令和7年度の完成をめざし予定どおりきちんとやれるようにと考えています。本事業に対し、国交省の防災・減災予算を投入しており、予算が延長も認められたので、一日でも早い完成を我々もめざしている状況です。

また、下水門ですが、水門を閉めるために命を落とされた方が東日本大震災の時もみえたように、実際に閉めに行くというのはなかなか大変なので遠隔操作というものもあるようですが、最近は遠隔操作よりも自動閉鎖の方が主流にな

っています。自動閉鎖ですと遠隔地で状況がわからない中で操作するより良いという話もあります。コスト的にも自動閉鎖のほうが優位とのことですので、木曾岬町とも対話しながら愛知県と調整を進めていきたいと考えています。

(町長)

木曾岬町は輪中の町で、外周の輪中堤防は主要な道路の使命も担っています。もう一つは南北に現県道と県道バイパスが走っています。特に、東側の鍋田川の右岸左岸が県境に沿ってあるわけですが、その町道鍋田川線、これが名古屋港の貨物コンテナ埠頭の操業に関連して非常に通行量が増え、通過車両によって沿線住民に振動や騒音等で大変ご迷惑をおかけしています。なんとかこれを、少しでも改善が図れないか。

もう一つは、木曾岬町は桑名市や、いなべ市・東員町と広域行政でお世話になっていますが、どうしても地形的にも、木曾川を越えて行く必要がある。このことから、愛知県とも一体的な地域づくりを進めていく必要があり、愛知県側へのアクセス道路が不可欠だと思っています。そういった観点から、県境に沿った南北の道路、愛知県側には名古屋第三環状線の計画があつて、現在整備計画がすすめられています。残念ながら肝心の木曾岬町の南北の区間は事業化はされていない。なんとか愛知県に働きかけて事業化を進めてもらい、名古屋港や木曾岬干拓からの通過車両の分散をはかり、町道鍋田川線の負荷を下げたい。それと共に、愛知県側との一体的な地域づくりのための東西の主軸になる道路を第三環状にアクセスをはかっていきたい。そのあたりの、愛知県側との道路整備の考え方についての知事の考えをお聞きしたい。

(知事)

まずは町道から第三環状線に向けて作るアクセス道路についてですが、これは町道ですので、町の計画で作っていかれるわけですが、国交省に要望していかねばならないと思います。県としても、バックアップを全面的にさせていただきます。そして、工事の際の技術的な問題も、川を越えていくわけですからいろいろあると思いますが、その支援もさせていただきたいと考えています。

それから、第三環状は愛知県の事業ですから、国であれば愛知県と調整しながら行うのですが、隣県では難しいところがありますが、そこは木曾岬町がしっかり（働きかけを）やっていただいています。他に動かしていくのに何が肝となるかを考えると、木曾岬町道に入ってこられることで事故がこんなに起こっているとか、命が失われているとか、あるいはこんなに怖い思いをしているとか、そういったことをマスコミ報道も含めてアピールしていく等も一つ大きなポイントではないかと考えます。そうすることで、事業スピードをあげてもらおうという

のが大事だと思いますので、またこれから一緒に考えていきたいなと思っています。

(町長)

もう一つは、縦軸になる県道整備についてです。県道のバイパス整備がなされたことに関して、県の尽力に感謝しております。引き続き、木曾岬干拓から流れる車両の縦軸になる県道バイパスを、国道1号線、あるいは東名阪に向けて整備をはかっていく必要があるし、さらなる延伸について知事の積極的なご意見を聞かせていただきたい。

(知事)

先ほど加藤町長と一緒に県道を見てきましたが、狭かったです。現在、何箇所かで待避所の整備がなされてるということでしたが、当面はそれを活用していただく、ということですが、木曾岬干拓から23号線を渡った所ぐらまで県道のバイパスができています。この延伸を早く進めていくということです。これも、工事をするのは桑名建設事務所になりますので、その中で優先順位をつけながらになるんですが、早めに作っていったほうが物流にもメリットがあると思えますので、よく相談をさせていただいて、現在の県道の整備との関係も睨みながら、また用地買収の進め方も町と相談しながら、バランスのいい形で進めていきたいと思っています。

(町長)

最後に、木曾岬干拓に関わる問題をお話しさせていただきたい。

一つは、木曾岬干拓の道路アクセスの問題。特に愛知県側へのアクセスを、早急に図っていただきたい。利便性はもとより、安全面から今の県道1本では、万が一の時に大変なことに陥ってしまう恐れがあります。もう一つは、木曾岬干拓を守る堤防の耐震補強を図っていただいて、道路と堤防、この安全をしっかりと確保していただきたいと思っています。この点について、知事の積極的なご意見をいただきたい。

第3期の分譲が進んでおりますが、企業誘致するにあたっては、今までの教訓から、地域貢献をしていただけるような、波及効果のある企業を優先していただけるようにご配慮いただけないかなと思っています。特に、雇用はもちろん、地域貢献に関しては、例えばESRからご提案をいただいているような災害時における応援協定といった、地域との関わりをしっかりとっていただけるような企業を優先的に考えていただけるとありがたい、と思っています。

もう一つは、南部の土地利用に向けて準備が始まっていますが、今売るところ

が先が見えてきているのに、その先の計画が決まっていない。もっと早く次のステージに入って行けるように今から考えていただけないか。

一昨日、二ノ湯内閣府特命大臣にお目にかかったが、(木曾岬干拓について)「いい場所にあれだけの土地があるのに(もっと活用しないと)もったいない」とおっしゃってみえました。私もまったく同感で、ぜひ少しでも早く次の手を打っていただきたい。また、さらに南部に向けての開発には時間がかかると思われるため、暫定的な利用も視野に入れていただけないものでしょうか。

(知事)

木曾岬干拓から高速道路へのアクセスが一番重要なことだと考えます。愛知県とも話をしながら、どういうやり方があるのか、愛知県側の県道の活用も含めて議論していきたいと思えます。

それから安全性の確保も当然必要で、避難路としても道路は使われることになるので、物流・経済への影響と緊急避難、2重の意味で安全性の確保に資すると思われる道路をどんな形で整備するのがいいか、現在も協議をすすめています。引き続きなるべく早い段階で結果がでるように進めていきたいと考えています。

第3期の分譲が終わりこれから第4期の分譲に着手する段階になり、事業者の方にヒアリングを行っていくことになっていきます。その時に、基準の中で(地域貢献への役割としてのあり方を)作りながら進めていく、ということで考えています。

それから南部エリアについて、なるべく早いタイミングで干拓地の土地利用検討協議会を開いて、話し合いを進めていきたいと思っています。

木曾岬町にもいろいろとご厄介をかけますが、引き続き県との対話を図っていただきたい、とお願い申し上げます。

二ノ湯大臣は元々いなべ市にゆかりがあり、前々から三重県にシンパシーを感じておられ、それが募って「有効活用を」と言われたのだと思います。おっしゃる通り、なるべく早いタイミングで活用しないともったいない。ただ、住民にとっても、行政にとっても、入ってこられる事業者にとっても一番いい形で活用いただきたい、ということで、拙速になってもいけないし、いたずらに時間をかけるのもよくないので、関係者が一堂に会してよく話し合い、一番良い形をとっていくのが最善な答えになっていくと思いますので、また引き続き対話を進めさせていただきたいと思えます。